

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672900293		
法人名	社会福祉法人 秀孝会		
事業所名	グループホーム京都ひまわり園 (1階さくら)		
所在地	京都府八幡市八幡清水井20番地		
自己評価作成日	平成30年3月9日	評価結果市町村受理日	平成30年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kani=true&Jyogovocd=2672900293-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1番地「ひと・まち交流館」京都 1階		
訪問調査日	平成30年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者がその人らしく生活できるよう、また、心から自分の家と思える場所「第二の我が家、第二の家族」を目指し、当たり前の生活を明るく共にする事で、家庭的な雰囲気の中で生活していただけるよう継続してサービス提供に努めています。
 近年、入居者の重度化進行がある中、往診医との医療連携がある事から、入居者の多くが最期まで当園での暮らしをご希望されています。この1年内では、入居者の再アセスメントを行い、その方の個性を活かした個別ケアを出来るだけ行えるように実践をしてきました。
 また、事業所として法人運営施設と連携をしつつ、認知症あんしんサポート相談窓口を設置して、地域の方々からの認知症相談を受け付けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本三大八幡宮の一つである国宝「石清水八幡宮」の傍に、グループホーム京都ひまわり園があります。平成16年に「社会福祉法人 秀孝会」が2ユニット(18名)で開設されました。道路を隔てた向かい側には、同法人の特別養護老人ホームやケアハウスなど福祉施設があり、連携体制のもとで運営されています。法人の理念と共に事業所の理念に沿って、一人ひとりの「思い」を細かく把握して介護計画に反映させています。日常の会話の中から「その人らしさ」の言葉を選び、介護計画を作成している「利用者本位」のサービスの提供に繋がっています。また、ほとんどの家族が「最後まで京都ひまわり園で過ごさせたい」との思いを持っておられる事は、家族と事業所(職員)の信頼関係がしっかりと繋がっている証と思われます。入居者にとって「第二の我が家」であり「第二の家族」になっているようです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所目標と同時に基本姿勢を策定している。法人ホームページや事業所パンフレットにも掲載したり、理念は事務所、玄関に掲示しており周知に努めている。	法人の基本理念を「照千一隅」と表し、「輝きをもち 必要とされる人になろう」と示している。ホームページやパンフレットを活用して法人の「思い」を広く発信している。事業所としても「第二の我が家・第二の家族」を目指して、職員は温かい支援に努めている。入居者の穏やかな表情で過ごしている姿を見て、日頃の実践状況が確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・老人会への加入は区長と相談し、次年度から加入する。入居者の重度化及び職員体制から外出機会の確保が減少しているが、地域行事の敬老会や個別外出など、できる限りの地域交流に努めている。	以前から区長との交流はあり、地域の夏祭りや敬老会などに出席して住民との交流の場を設けている。道路を隔てた向かい側には、同法人の運営する特別養護老人ホームやケアハウスの人達ともイベントなどで共に楽しいひと時を共有する機会もある。次年度から正式に自治会・老人会に入会する予定があり、さらに、地域住民との交流の場が広がるように努めていく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域還元については法人全体で捉えている。事業所としては、認知症相談窓口の週2日実施。管理者は継続して、市の介護保険関連の委嘱委員を受けている。法人においては、介護職員初任者研修事業、就労支援準備事業、車椅子洗浄の他、加盟団体が行う地域福祉創生事業への参画をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域委員の参画会議の開催は行えておらず、意見聴取を行っている。行事開催に併せて入居者家族を中心に、運営や取組み状況の報告や意見聴取を行っている。	現在の所、運営推進会議という形では実施されていないが、区長と話し合ったり、家族会で事業所の取り組みを報告し情報交換・意見交換を行って、サービス提供に反映させている。今後、会議の開催に向けて検討しているところである。	現在の所、運営推進会議としての開催が実施できていないようですが、次年度から正式に、自治会・老人会に入会されるとの事なので、地域の方たちの協力を得て開催の運びになることを期待しています。

京都府 グループホーム 京都ひまわり園（1階さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ適宜連絡、訪問している。市町村担当者には、運営等に関してなど、相談・助言をいただくようにしている。	法人として、八幡市の委託事業を担っており、市とは双方向での密接な協力体制を築いている。グループホームとしても「認知症相談窓口」を開設している。その他、介護保険制度に関わる事案などの相談・アドバイスの協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について、法人として意識統一しており、事業所としても学ぶ機会をもってきた。歩行不安定な方の居室内移動を速やかに察知できるよう、ご家族と協議し離床センサーを設置いただき、安全確保に努めている。	法人全体で基本的に「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。声掛けや言葉遣いなどでも、入居者の行動を抑制しない様に配慮している。ただし、入居者の状況によって、転倒などの危険が予想される場合には離床センサーなどを活用して安全確保の対策を講じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止と並行して、法人・事業所として勉強会等を開催し、学ぶ機会を持っている。虐待が見過ごされないよう、皮下出血等の現状申し送りなど行い、職員間で注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて学ぶ機会は持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定時には書面にて説明を行い、同意・署名・押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のご面会時に伺う事が多い。年間行事の多くにご家族様にもご参加いただき、家族会を開催して秘匿性を確保しながらご意見を出していただきやすい機会を設けている。	入居者の意見・要望などは、日常生活の中で言葉や表情・しぐさなどから聞き取ったり、汲み取っている。家族などからは、来所時の会話などから聞き取って記録している。家族会の機会にも情報・意見交換を行っている。人事に関することや食事の変更に関する事などが出ている。事案に応じて検討し改善に繋げている。	

京都府 グループホーム 京都ひまわり園（1階さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するスタッフ会議にて、単年度事業計画の進捗把握を行い、適切な事業運営に努めている。	日常的に、個別の支援方法など申し送り時に話しあったり、定期的に行うスタッフ会議で話し合い検討している。「アロマセラピーの効果」を試したいとの提案があり、現在試みている所である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同一事業部にて定期開催している安全衛生委員会にて確認に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、新任・現任研修や勉強会の開催などでスキルアップに努めている。法人勉強会参加は乏しい現状だが、所内で会議時開催している認知症に資する学びを継続している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府老人福祉施設協議会グループホーム委員会に加盟しており、地域密着サービス事業所として交流を図る仕組みはあるが、人員不足のため十分な派遣はできていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を含め、ご本人やご家族に協力していただき、できるだけ多くの情報をいただくよう努めている。特に初期段階では関わりを多く持ち、馴染みの居室作りをご家族にも行っていただくようお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の情報収集と併用して行い、家族関係など提供いただく情報を活用している。ご入所が決まり、一先ずご安心されるご家族は多い。ケアプラン作成の為に、ご家族としてのご意向をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の置かれている状況を勘案し、暫プランを作成し、必要な支援ができるよう短期で見直し柔軟な対応に努めている。		

京都府 グループホーム 京都ひまわり園（1階さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度化が進行しているものの、入居者一人ひとりのできる事を把握し、活躍できる場を作れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご来訪時、特に生活状況など共有していただけるよう報告に努め、ご家族にしかできない面会での精神的な支えなど、役割を持っていただけるよう伝えている。また適宜、主治医を含めたカンファレンスに積極的にご家族には参加いただき、心身状況の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室はできるだけ安心できる空間作りになるよう、ご家族にもご協力いただき工夫している。また、個別外出の機会をできる限り持つように努めているが、日常支援には至っていない。	友人や知人も共に年齢を重ね、来所の機会が少なくなってきた。また、入居者自身も高齢による体力の低下などもあり、馴染みの場所への外出が厳しい状況になっている。併設の特別養護老人ホームやケアハウスの住民達と合同のイベントなどで交流する機会に新しい馴染みの関係が出来るように努めている。移動食料販売車は今も継続して来所している。入居者同士で気の合う人との馴染みの関係も出来てきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方など相性に留意し、共に誕生日を祝うなど関わりが持てるようにしている。ご自身の空間を大切にされる方には、職員が積極的に声かけを行う事で、孤立を生じないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここ1年内の退所はなかったが、以前、看取りを行い退所されたご家族が、ボランティア等で協力して下さる関係がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中での言動を汲み取れるよう傾聴に努めている。センター方式の一部を活用し、ご本人からの聴取が困難な場合を含め、意向確認に努めている。	入居前の面談で、本人や家族などから生活歴や心身状況と共に入居後の生活の要望など聞き取り記録している。入居後は、日常生活の中での会話や行動から「その人の思い」を汲み取っている。	

京都府 グループホーム 京都ひまわり園 (1階さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入所時やご家族の面会時など、センター方式も一部活用しながら随時情報収集し、ご利用者ごとの個人ファイルに保管し共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録に記載し、特記事項は情報把握がしやすいように、日誌記載などしている。ただ、伝達力の向上や記録の乏しさなど課題は継続しており、引き続き改善が必要である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族にも積極的に担当者会議に出席していただけよう調整し、ご本人やご家族の意向を聴取しながら、主治医との緊密な情報共有と意見聴取に努め、スタッフ意見も反映しつつ原案作成に努めている。	日々のケース記録を基に、心身状況・サービスの提供状況などを担当者会議で評価(モニタリング)している。家族などや主治医の情報・意見なども得て介護計画に繋げている。特に、本人の言葉から介護計画を立案しているため、その人の思いに即した個別援助計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援状況を記録し、定期的にモニタリングを行い、必要に応じた計画作成の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリや歯科診療、他に介護支援サポーターの受入れ等を行っている。また、外出を含めた個別ケアの実践に力を入れた。より多くの方への提供を行う為に機会は限られたが、個別外出の提供にも取り組んだ。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方から地域行事の情報をいただいたり、ボランティアの日常清掃を含めた行事参加や傾聴活動の受入を行い、資源を活用している。福祉用具の貸与も受けて、自立支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの入居者が看取り希望をされ、医療連携の円り易い往診医の診療を受けている。状態に応じ、主治医がご家族への説明の場を持って、関係者での状態共有を行うなど、緊密な連携のなか支援をしている。	かかりつけ医の選択は、本人・家族などの希望を尊重しているが、ほとんどの入居者は、事業所の協力医の往診により健康管理を委ねている。事業所で「最後の時を迎えたい」との希望が多く、往診医と密接な連携のもと看取りを行っている。訪問歯科も希望により受診できる体制がある。	

京都府 グループホーム 京都ひまわり園（1階さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している訪問看護ステーションから看護師派遣を受けている。健康面での情報は、訪問看護及び訪問診療にて共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報交換ができるように、フェイスシートや看護サマリー等の情報提供書の交換を行っている。入院中は、面会や医療連携室からの情報収集を行い、早期退院が図れる体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携を図った時点で順次、カンファレンス時に終末期のあり方について意向確認した。状態の大きな変化や終末期に近づけば、改めてご家族、医療と連携を図り、現状共有や意向確認など適宜行ってきた。	医師の協力のもと、本人・家族などの希望に応じて終末期の支援を行っている。医師と家族・職員が何度も話し合い、住み慣れた部屋で穏やかに最後の時を迎えてもらっている。重度化した場合には、状況に応じて特別養護老人ホームへの選択肢もある。過去に見取りをした家族には、今も感謝の言葉ももらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急・事故発生時の対応マニュアルは整備している。救急搬送対応の希望有無を明確にし、ご家族・管理者への速やかな報告と共に対応指示を受けて日々の実践に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所での地域連携は図れていないが、隣接の法人施設との協力体制及び警備会社との連携体制は整備している。	消防訓練の計画に基づき、年2回の実地訓練を行っている。有事には、隣接する法人本部・特別養護老人ホーム・ケアハウスなどとの連携体制を整備している。消防署・警備会社と直結した通報システムも確保している。発電機も小型ではあるが4台備えている。過去に停電が発生した際に活用することができた。八幡市との防災メールの取り決めも整備できている。サバイバル食品なども有事に備えて保管している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴の情報把握を正しく行い、センター方式の一部活用も行い、共に役割を持って頂ける生活行為などを積極的に行っていたく事で、その人らしい生活確保に努めている。	事業所の理念に「第二の我が家・第二の家族」と示しており、一人ひとりの「思い」を把握して支援に繋げている。介護計画書にも、それぞれの言葉から必要な支援を挙げて「その人らしい暮らし」が出来るように努めている。プライバシーを損ねたり、羞恥心を抱かせないように、言葉かけや言葉遣いなどにも配慮している。特に、排泄や入浴の介助には充分留意して行っている。	

京都府 グループホーム 京都ひまわり園（1階さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業所の基本姿勢として挙げており、職員本位にならないように、専門職としてゆっくり待つよう努めている。特に個別ケアの実践に対して、ご本人の希望を聞く機会を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員体制からゆとりをもった関わりは持っていないが、その中でも、個別ケアやその配慮を行う意識は持っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択可能な方には、好みの衣類を選んでいたり、美容・理髪等支援をしている。選択困難な方には、嗜好情報などを基に支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとで献立立案をして、地域スーパーや移動販売野菜を購入し作っていたが、心身介助に時間を費やせるよう、試行的にクックチル方式での食事提供を行っている。作る機会は少なくなったが、調理の一連動作は一緒に行うよう努めている。	今年度は、出来るかぎり入居者と関わる時間を多くしたいとの思いもあり「クックチル方式」を取り入れている。しかし、ただ温めて提供するのではなく、職員が味見をして入居者の好みの味に調整してから提供するように努めている。今の所、特に問題もなく、おしゃべりしながら食事をしている光景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多品目を目指し、摂取・水分量など記録し共有する事で、少ない方には捕食等、嚥下状態によってはとろみ剤の使用など、状況に応じて対応している。定期的に体重測定を行い、一定の栄養指標としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや誘導、介助にて、各自居室でうがいや歯磨きを行っている。定期的に歯科衛生士の口腔ケアを訪問にて受けておられる方もいて、助言をいただき口腔運動を実施している方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、適切な援助ができるように時系列で記録をしている。時間帯によってオムツ種類を使い分け、心理的・経済的にも負担軽減を目指している。可能な限り、トイレでの排泄を目指してトイレ誘導を支援し、日中はトイレでの排泄を基本としている。	気持ちよく一日を過ごせるように、出来る限りトイレでの排泄を支援している。一人ひとりの排泄リズムを記録し把握して、随時声掛けや誘導を行っている。下着も「その人らしさ」を損ねない様に、適切な下着を選んでいる。リハビリパンツから布パンツに変えたケースもある。	

京都府 グループホーム 京都ひまわり園（1階さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取等、排便を促し易い食品を積極的に取り入れるように努めているが、下剤調整が主立っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただけるような支援は、人員体制からできていない。職員スキルの差もあって、入浴提供機会の確保に努めている。	その日の体調や気分など配慮しながら入浴を決めている。年齢を重ねて残存機能の低下もあり介助の必要性も高くなり、ゆっくり楽しみながらの入浴時間の取り方が厳しくなってきた。しかし、職員は頑張って清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度や寝具調整、当日の体調を含めた不安への傾聴など行い、安眠への支援をしている。現在は、試行的にアロマによる入居者の変化を観察している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬剤と共に提供のある、薬情報をファイル化しており、薬効や副作用などの情報共有に努めている。主治医や調剤薬局と連携を図り、服用に際しての注意点を職員間で共有し、状態確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節感やイベントへの楽しみを持って頂けるよう、食堂の装飾等で視覚的な刺激になるよう努めている。また、重度化から行える方は少ないが、家事関連事業や晩酌など、役割や楽しみを持って支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出には至らないが、個人のイベント企画での外出支援や、できる範囲での散歩付添などの支援に努めている。	日常的な外出となると、入居者の高齢に伴う体力の低下などから厳しくなってきた。しかし、広い前庭があり、朝の体操や洗濯干し・取り入れなどで外気浴・日光浴の場となっている。また、近在の人の往来や車の走行など見る事によって社会との繋がりを感じる事はできる。時には、向かい側にある特別養護老人ホームを訪ねたり、地域の行事に参加する機会もある。家族との外出の機会も大切にしていく。希望があれば職員と買い物に出かける事もある。移動食料販売車は定期的に訪れているので、買い物の楽しみがある。	

京都府 グループホーム 京都ひまわり園（1階さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の方が所持をされている。ご家族と協力し出納確認を行い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があれば、できる範囲で支援をしている。 手紙のやり取りの実績はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある物を飾ったり、カレンダーをかけている。居間はガラス面が多く明るくなっており、オープンキッチンのあるリビングで団らんされ、ソファ等々の位置配慮など行っている。 現在、試行的にアロマを取り入れ、空間作りから入居者変化の有無を観察している。	事業所の特色の一つに広い前庭がある事である。多目的な活用ができる共用空間とも言える。事業所内は、明るい雰囲気があり廊下は回廊式になっていて、リハビリテーション（歩行訓練的な）としての利用もできる。リビング・ダイニングは南面に大きく窓をとり明るい陽射しが入っている。夏場はカーテンなどで暑さを調節している。オゾン発生器を活用して空気の清浄化を図っているが、今回「アロマ」を取り入れ、その効果を見極めている所である。穏やかに過ごせる共用空間になっている。明るい落ち着いた表情で過ごしている入居者の姿があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席の配置を工夫する事で、新聞を読んだりテレビを見たりしてくつろげるようにしている。入居者同士の関係性にも配慮し、1人で過ごせる空間も作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台と空調、広い収納空間がある。ベット、畳敷きに布団と部屋の改造は可能である。使い慣れた家具や衣服をご本人とご家族で準備していただいている。重度化に伴い、介護ベッドのレンタル等をされる方が増えた。	各居室にも、オゾン発生器が取り付けられており、室内は不快になるような臭いもなく清潔な雰囲気がある。それぞれ好みの家具を配置して、その人らしい部屋作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターの使用は、ご本人の能力に応じて使用されている。重度化から安全面を優先し、2階には転落防止の階段柵を常時設置するよう変えた。表示、表札など設置する事で、理解しやすい目印の工夫は行っている。		